東日本大震災に際しての避難所の管理・運営等の記録（H23,7,11版）

卒業式会場予定の体育館
（H23,3,12（土））

3,11の段階では，整然とパイプ椅子が並べられ，翌日の卒業式を待つのみだった。

『4日目』の職員室黒板
H23,3,14(月)

教務主任の桜井泰実教諭が毎日板書した避難所運営予定表

【黒板左側から】
- 落とし物
- 日勤・夜勤の勤務態勢
- 天気予報
- 交通情報
- 配給予定（6:30, 10:00, 16:30）
- 在庫状況（食料）
- 差し入れ一覧
- 15日(火)の配給予定
- 灯油等の在庫状況

仙台市立五橋中学校

［目次］

1　はじめに…… 1
2　生徒の避難の状況
(1)　巨大地震発生時(14:46)の生徒の状況…… 2
(2)　生徒の保護者への引き渡しの状況…… 2
3　避難所の開設について
(1)　避難所の開設に当たって…… 3
(2)　避難所開設と第一日目の状況…… 3
(3)　教頭（小川教頭）メモから…… 4
(4)　避難者について…… 5
4　避難所の管理・運営について
(1)　大震災直後の避難者の状況（3/11から数日間）…… 5
(2)　保健関係（原田養護教諭）の対応の状況…… 6
(3)　備蓄室に備蓄されていた食料等の配給の状況…… 7
(4)　青葉区役所からの派遣職員等の対応の状況…… 7
(5)　避難者への見舞いや慰労等（精神的ケア）について…… 8
5　食事や物品の支援・配給等について
(1)　食料の支援・配給について…… 8
(2)　保護者や地域の方々からの差し入れについて…… 8
(3)　在庫食料等一覧の作成について…… 9
6　教職員や生徒の動きについて
(1)　教職員の動き……11
(2)　生徒（ボランティア）の動き……11
7　その他（学校運営の概況）
(1)　生徒の安否確認の結果……13
(2)　生徒への臨時休校等の周知……14
(3)　正常な学校運営への復旧のために……14
(4)　地域・地域の町内会等との関係……14
(5)　今後の検討課題～防災教育の改善・充実の観点から……14
8　終わりに（校長の私見）……15
※　資料編［資料１～資料25］……17～41

1　はじめに

H23,3,11に発生した東日本大震災から，まもなく４ケ月が経つ。当時は鮮明だった一日一日の記憶も，月日の経過とともにおぼろげになってきている。悲惨な記憶は，意識の底に埋没させてしまいたいという，いわば自己防衛とも言える心理作用の働きなのかどうかは分からないが，記憶のあるうちに校長として「本校の記録」を残しておかなければいけないという一種の使命感のようなものから，わずかに残っている校内の記録を探しながら，今回，この表題の名の下に，本校なりの記録をまとめてみた。

なお，今後詳細な事実等が判明した場合，改訂版が発行されることもあるということも了承していただきたい。

本校の場合，幸いなことに，生徒や教職員に死傷者が出ることがなく，校舎も使用が不可能なほどに大きな被害を受けることはなかった。そのために，避難所の運営・管理の面での実態や課題を中心に「記録」としてまとめることにしたが，内容的には，今後に備えて，学校なりの課題を含め，市教委や災害対策本部への要望等にも触れていることから，この記録は校内に留めておくだけでなく，関係機関にも送付したいと考えている。

H23,7,11，14:46には，仙台市として今回の大震災で犠牲になられた方々に対する追悼記念式典が開催され，全市一斉に黙祷を捧げることになった。

改めて，犠牲になった方々のご冥福をお祈りするとともに，行方不明の方々の早期発見を祈念し，さらに，家族や住居，その他多くのモノを失った方々に対して心からのお見舞いを申し上げて巻頭の言葉としたい。

2　生徒の避難の状況

(1)　巨大地震発生時(14:46)の生徒の状況

①　３年生は既に下校していた。

３年生の何名かは，明日(3月12日)の卒業式後の午後に実施する予定だった『卒業を祝う会』で披露する「出し物」の練習のために，片平市民センターに集まっていたとのことだったが，全員が無事ということだった。

なお,『卒業を祝う会』とは，卒業生の保護者が企画・実施するもので，食事をしながら卒業生とその保護者が参加して行う祝賀会のことである。

②　１・２年生は，手分けして，卒業式の会場準備等を行っており，その準備も終盤に差し掛かっていた。多くの生徒は式場となる体育館内や校舎内にいたが，自分の作業が終わり，帰宅途中の生徒や自宅に戻っていた生徒も何人かいた。

③　巨大地震発生直後，校内放送によって，校内にいた１・２年生を校庭に避難させた。

④　地震が収まった後，教職員によって，校舎の安全確認を行うとともに校舎内に取り残されている生徒がいないかどうかの点検を行った。

⑤　その後，安全確認と点呼を実施した結果，けが人はゼロだった。

⑥　校庭の校舎側に陸上部の簡易テントを立て，職員室に設置されていた緊急無線を移動してテント内に設置した。

⑦　15時30分前後から，校庭には，一般市民が避難のために集まりはじめてきた。乳飲み子を抱えて避難してきた母親には，保健室の毛布を貸した。

天候は，本格的な雪に変わっていった。

(2)　生徒の保護者への引き渡しの状況

※　本校の親師会には,「地区（町内会)」の組織はなく，生徒たちも「町内会意識」はほとんどない状況であった。(昨年度調べた結果では，自分の家が何という町内会に所属しているか分からない生徒が大半であった。)

その結果，避難訓練のときには，町内会（地区）単位に集合したり，町内会（地区）の保護者への引き渡し訓練等も行ったことはなかった。

①　夕方も近づいてきて，校庭に生徒を引き取りに来た保護者に対しては，そのまま引き渡した。

②　各小学校区単位で自宅に戻すことに決め，１・２年生を小学校区単位に整列し直し，16時頃から複数の教員が引率して，徒歩で各地区に向かった。

学区外の生徒は，学校に留めておくことにした結果，10数名の生徒を１階会議室で待機させることにした。

教師の引率により集団下校させた生徒は自宅にいる保護者に引き渡すことにした。自宅に保護者のいない生徒は，教員が再び学校に連れてきて，１階会議室で待機させた。

次の一例の外には，全員帰宅か学校待機ということになった。

［深夜まで所在不明だった１年男子の例］

片平丁小学校区内の「霊屋下・米ヶ袋地区」の１・２年生約70名を引率した教諭の場合，自宅に家族が誰もいなければ自分たちに合流するようにという指示の下，自宅付近で解散させた１年生男子がいた。

その生徒は自宅のアパートの入り口で,「親の帰宅を待っている」予定だったが，その後，母親が帰宅したとき，その生徒の姿はなく，一時所在不明という状態になったケースがあった。

最終的には，夜遅くなって，その生徒は自分の判断で，近くの避難所（片平丁小の体育館）に身を寄せていたということが判明した。

③　学区外から通学している生徒の保護者や学区内でも直接生徒を引き渡せなかった保護者が夜になって次々自分の子どもを引き取りに来たが，それは，夜の10時頃までかかった。

迎えのなかった生徒，自宅や保護者と連絡がつかなかった生徒は12名ほどとなり，その夜は２階多目的室で一夜を過ごすことになった。

④　ほとんど全ての教職員は，その夜，学校で一夜を過ごした。

3　避難所の開設について

(1)　避難所の開設に当たって

①　本校では，市教委の指導もあって，毎年度『避難所開設・運営の支援マニュアル』を作成してきているが，あまりにも「(標準) マニュアル」を参考にしすぎて，「災害時に生きるマニュアル」となっていなかったことを反省しなければならない。

②　避難所の開放・運営に係る青葉区役所（区民生活課防災担当者）との事前協議等が，少なくてもこの２年間，開催できていなかった。(反省・課題)

　さらに，平成22年7月21日付けで，消防局防災安全課長から２名の指定動員職員の氏名・所属等を通知されていて，実際に２名の方が来校し，教頭と10分程度の打合せをもったことがあった。

　そのうち１名は，４月から配置換えになる予定とのことで，もう１名は教育指導課の情報課推進係の方で，震災発生の翌日に本校に来校したが，特に何をするということもなく，役所に戻っていった。実際に避難所運営に携わることはなかった。

(2)　避難所開設と第一日目の状況

①　避難所の開設に当たって，『仙台市地域防災計画』に基づいて作成した本校の「避難所開設・運営の支援マニュアル」には，次のように規定されている。

　「仙台市地域防災計画により，当校に対して収容避難所として開設要請を行い，また,開設後の収容避難所管理運営を行うのは青葉区役所災害対策本部となる。」

　地震発生後まもなく，本校の校庭に地域の市民が避難してきたことは前述した（２－(1)－⑥）が，その数は次第に増加し，また，16時前後から雪が降り始め，さらに，夕暮れ時も近づき，避難者の人々は武道館・体育館前のピロティに移動してきた。

②　ピロティ付近が避難者であふれ出してきたので，校長の判断で，武道館を開けて，教職員が中心となって，柔道用に準備していた畳を武道館の床一面に敷き詰めた後，避難者を武道館内に入れることにした。

　なお，この時点で，状況を説明するために青葉区役所に電話を入れたところ，「本校を避難所として開設する決定はしていない。」という回答だった。

　その何十分か後，青葉区役所から，「本校を避難所とすることに決定した」旨の電話があった。

③　避難者の収容先として，当初は，体育館は明日の卒業式のための式場として準備が完了していたので，できる限り開放したくないという思いではあったが，武道館が満杯になったので，やむなく体育館を開放した。

　しかしながら，体育館も満杯状態になったことから，その近くの被服室も開放し，その後，南校舎の１階の普通教室２つ，さらには，２階の普通教室４つ，３階の普通教室４つ，４階の普通教室４つも開放しなければ収容しきれない状態まで，避難者が増え続けた。

　なお，1階会議室には，市立病院から紹介されてきた病状の軽易な人々10数名を収容し，１階ラウンジは授乳室として設定し，2階多目的室には本校生徒を収容した。

④　詳細な避難者数はカウントしなかったが，武道館に約400名，体育館に約700名，各教室等に約750名（50名×15室），廊下・屋外等に約120名，保健室や多目的室等に約30名で，合計約2,000名程度（推測）の人々が，電気・水道・食料・毛布等のない一夜を過ごした。

⑤　本校の教職員は，本校正門前にテントを張り，そこを受付・案内所として，避難者の受け入れたり，避難してくる自家用車を校内に入れないようにしたりする業務を担当した外，校内の各箇所の巡視，プールからのトイレへの水の補給等に当たった。

⑥　避難者は深夜の１時過ぎまで，ほぼ絶え間なくやって来た。

⑦　結果的に考えれば，「避難者名簿」等の作成も必要だったかもしれないが，この時点では，大勢の避難者の受け入れ体制に全力を注ぐことに精力を使ったこともあり，避難者数のカウントをはじめ，「避難者名簿」の作成までには至らなかった。

(3)　教頭（小川教頭）メモから

①　3/12(土)，　7:00　青葉区の災害対策本部から毛布150枚支給される。
19:00　職員打合せ
19:30　灯油ストーブ点火
20:00　校内での放送停止（避難者数680名……※P3，３-(2)-④との誤差有）
※　この日の保護者等からの差し入れ状況
ア　阿部さんの保護者から，教員へのおにぎり（11:00頃）

②　3/13(月)，　6:00　交通情報の収集開始
灯油の調達先は，上杉2-12の「エネオス」のみであるとの連絡有
（職員証を提示し，指定避難所であることを伝えること）
6:30　市立病院から心臓病患者の搬送者有
ホテルモントレから宿泊予定者や会議予定者等約100人を本校に移送したいとの連絡有
8:00　区役所障害高齢課から１名増員され合計２名(早坂・今野)が来校。会議室(体調不良者)は，別に小嶋保健士が対応。
灯油の在庫は8.5ケース（1ケース９㍑）だけなので，会議室(体調不良者)を除いて昼間はストーブを使用しないことにした。
9:20　五橋連合町内会長さんが来校し，「地域住民用の物資はないのだろうか，町内会として手伝えることはないか。」とのお話をいただく。(区役所の職員が対応)
10:55　タイ人の方が自ら放送で知人の呼び出しをする。
11:20　青沼教育長来校・視察。
舟形町より見舞いの電話有
11:50　外国人から「避難所滞在証明書」の発行依頼有。
ＪＣの青木さんより協力の申し出有。
12:10　体育館内のパイプ椅子の片付け終了。
(卒業生と在校生のボランティアが活躍
＝水洗トイレ用の水をプールから運搬作業も)
13:50　青葉区対策本部から「アルファ米を準備中だが，福祉プラザに60人の避難者があるので，五橋中と案分してほしい。」との連絡有。
(その後の連絡)
14:20　青葉区対策本部の福祉プラザ担当者が来校し，「福祉プラザにいる避難者をいずれ五橋中に移動させる予定」との話をされた。
15:50　福祉プラザから連絡。福祉プラザにいる避難者は，「そのまま福祉プラザに残りたい」ということなので，そのようにするとのこと。
14:15　一斉配信メールで以下のことを保護者・生徒に伝える。
14:40　本校ホームページで以下のことを保護者・生徒に伝える。
・3/14(月)～3/18(金)まで，臨時休校
・3/16(水)に予定されていた学年保護者会は新年度に実施予定
・3/22(火)に実施する卒業式の動きについて
・3/23(水)以降の行事等の予定・生徒の動きについて
・（３年生に対しては，以上の他に）進路関係の日程について
15:55　青森と大阪の日本赤十字の方々が，避難者の健康状態の確認等のために来校
17:30　大阪「鶴兆」の方々が物資の差し入れのため来校
P8，【5-(1)-①参照】
18:30　職員打合せ
20:00　ストーブ点火・放送停止
21:00　消灯
※　この日の保護者等からの差し入れ状況　P8～9,【5-(2)-①～④と一部重複】
ア　高橋さん（保護者）から，教員へおにぎり（9:40）
イ　菊地さん（親師会役員）から，炭酸水とアメ（9:50）
ウ　今西さん（前親師会役員）から，お湯（10:15）
エ　ホテルの宿泊者から，牛タン５箱（10:35）

オ　八巻さん（生徒）から，チョコレート（10:35）
カ　避難者から，タオル（13:50）
キ　土橋さん（保護者）から，コーヒー（14:00）
ク　納谷さん（保護者）から，毛布と水６本（14:00頃）
ケ　阿部さん（保護者）から，チョコとカロリーメイト（14:15，前日も）
コ　菅野さん（保護者）

(4)　避難者について

①　避難者数の経緯（区役所職員が区防災対策本部に毎日報告した結果から）P17,資料1

・3/11(金)，(14:46地震発生) 21:00＝1,000人　23:00＝　500人
・3/12(土)，　1:30＝2,000人　　7:00＝2,000人　11:30＝2,000人　※2-(3)-①との誤差有
・3/13(日)，　6:30＝　500人
・3/14(月)，　8:00＝　500人　18:00＝370人　　(臨時休校)
・3/15(火)，　7:00＝　370人　17:00＝370人　　(臨時休校)
・3/16(水)，10:00＝　370人　17:00＝150人　　(臨時休校)
・3/17(木)，　9:00＝　150人　17:00＝150人　　(臨時休校)
・3/18(金)，　9:00＝　150人　17:00＝150人　　(臨時休校)
・3/19(土)，　9:00＝　　50人　17:00＝ 50人
・3/20(日)，　7:00＝　　50人　17:00＝ 42人
・3/21(月)，　9:00＝　　42人　17:00＝ 42人　　(春分の日，卒業式会場準備)
・3/22(火)，　9:00＝　　42人　17:00＝ 28人　　(卒業式)
・3/23(水)，　9:00＝　　42人　17:00＝ 33人　　(午前授業)
・3/24(木)，　9:00＝　　33人　17:00＝ 27人　　(修了式)
・3/25(金)，　9:00＝　　27人　17:00＝ 28人
・3/26(土)，　9:00＝　　28人　17:00＝ 15人
・3/27(日)，　9:00＝　　10人　17:00＝ 14人
・3/28(月)，　9:00＝　　14人　17:00＝ 13人　　(小中連絡会)
・3/29(火)，　(データなし)
・3/30(水)，　9:00＝　　13人　17:00＝　9人　　(離任式)
・3/31(木)，　9:00＝　　 9人　17:00＝　0人　　(避難所閉所)

②　3/17(木)現在の避難者一覧（避難者名簿から）　P18,資料2
（名簿への記入事項＝名前，ふりがな，性別，年齢，住所）
ア　県外　＝20人（岩手，福島，埼玉，東京，茨城，石川，栃木等）(3歳～62歳)
イ　県内　＝20人（亘理，東松島，古川，石巻，塩釜，岩沼，七ヶ浜等）(19歳～71歳)
ウ　若宮区＝18人（荒浜，福室，新田，新寺，清水小路等）(19歳～64歳)
エ　太白区＝ 7人（青山，越路，長町，土手内，緑ヶ丘等）(22歳～40歳)
オ　青葉区＝87人（五橋，北目町，米ヶ袋，本町，宮町，中江等）(9ヵ月～80歳)
（合計）＝152人

4　避難所の管理・運営について

(1)　大震災直後の避難者の状況（3/11から数日間）

※　電気復旧は，3/12(日)，12:34
　　水道復旧は，3/13(月)，14:55

①　本校への避難者の特徴
本校は仙台市の中心部・仙台駅の近隣に位置しているという特徴からか，次のような人々が避難等のために本校に押し寄せた。
（避難者と呼ぶべきか，「帰宅困難者」と呼ぶべきか混乱する部分もあるが，ここでは「避難者」と統一することにする。）
ア　本校が避難所だという情報を五橋交番から提供されて避難してきた人々
イ　本校の近隣の高層ビルに勤務する会社員（例えば，ショーケービルの方々等々）
ウ　帰宅の交通手段がないという会社のグループ（例えば，東北労働金庫本店等）
エ　仙台駅の駅舎が崩壊の危険があるということで，仙台駅から避難させられた大勢の旅行客（仙台駅では，本校を避難所だと知らせたとのこと）

オ　専門学校等に通う国内外の若者（例えば，東北外国語専門学校等）
カ　仙台駅近辺のビジネスホテル等から，ホテルが危険だということで，従業員が引率して避難してきた旅行客（例えば，ホテル東横イン，ウェスティンホテル等々）
キ　近隣の高層マンションの住人で，停電のために電子ロックが作動しないということで避難してきた人々
ク　犬や猫等のペットを一緒に連れてきた人がいて，ペットは外に置いてもらうことにしたが，中にはペットと外で一夜を過ごした人もいた。
ケ　本校生徒やその家族も避難してきたが，ごく少数だった。（生徒数で10人に満たなかった。）
コ　3/14(火)，22:45，武道館内に飲酒して初老の男性が周囲に迷惑ということで，五橋交番に連絡し，警察官にその男性を保護していただいた。
サ　避難所となっている本校へ，「人を探しているので，呼び出してほしい」ということで，来校した人は，200人を超えた。
　最初は，直接声を出して探してもらい，その後，『呼び出しカード』を作成し，校内放送を通して呼び出しを行った。 P20,資料4

②　避難者からの要望事項の特徴
ア　地震翌朝から，関東圏・関西圏等への交通状況を知りたいという旅行者からの問い合わせが多数あったが，学校としては「把握していない」と答えるのみであった。
イ　山交バスからの『「山形～仙台線」臨時便のお知らせ』を掲示・配布できたのは，3月14日(月)が最初であった。
ウ　3月15日(火)から，山交バス・宮城交通・ＪＲ東日本の運行状況をホームページから印刷・配布できた。
　特に，山形県地域・交通政策課による『仙台・東京・大阪・新潟方面と山形間の公共交通による移動手段　3月14日運行分』は役に立ったようである。 P21,資料5
　それ以降，数日間，各会社の運行状況を掲示・配布した。

(2)　保健関係（原田養護教諭）の対応
①　本校のすぐ近くにある仙台市立病院が「重症患者のみ」を治療の対象としたために，車椅子に乗るなどした病状が軽易な患者（酸素ボンベを離せない患者も含む）が10名前後も「回されて」きた。以下，原田養護教諭の記録から。
ア　3/11夜には妊婦さんとその家族，12日の未明には，市立病院から，狭心症発作回復期の患者さんが本校避難所に搬送されてきた。
　これをきっかけに，持病のある方など，特別に保護しなければならない人を対象に別室（会議室）を開放した。
　12日の日中は，３名の患者さんとその家族のみで静かに過ごしていたが，夕方になって，市立病院からの搬送者をはじめとして，体育館に避難していた人の中から体調不良を訴える人が次々と出始めた。
　その中で，鶴ヶ谷オープン病院から在宅酸素を必要とする患者さんが，電源を求めて本校に避難してきた。この時，患者さんに付き添ってきた青葉区保健所，障害高齢課の保健士さんが，養護教諭一人では対応困難な様子を見て，急遽，障害高齢課のスタッフ（保健士）による応援態勢が敷かれることになった。保健士さんの応援は，12(土)の夜から20(日)まで，昼番1名(8:00～17:00)，夜番1名（17:00～8:00）の体制で，保健師を派遣していただいた。
イ　3/13(日)，夜になると，「いつも飲んでいる薬がなくなった。」と訴える避難者が出てきた。風邪薬や頭痛薬は保健室に多少あるものの，血圧や動脈硬化の薬は保健室には置いていない。病院で処方していただく必要が出てきたので，休日でもあったことから，仙台市急患センターでの受診を勧めた。
　「14日(月)からは，市内の開業医ができる範囲で業務を開始する」という連絡を受けたので，学校近隣の医療機関を案内するプリントを作成し，体調不良や薬の欲しい人に配付し，自力で受診するよう勧めた。
ウ　体調の悪い方に開放してきた会議室に避難する人の数も増えてきたが，校医の森先生が昼休みを利用して，会議室の様子を見に来て下さった。その後，体調不良を訴える人や会議室の患者さんたちの様子で心配なことが出てきたときには，森先生にFAXを入れ，指示を仰いだ。
エ　ある日のニュースで，学校に避難している方の死亡について報道されたことがあ

った。本校も寒い上に衛生状態も悪く，感染症の心配も出てきたことから，避難している方々一人ひとりに，アルコール消毒剤を手にひとふりずつして回った。水が無く，手が洗えない状況だったこともあり，このサービスはとても喜ばれ，避難者が自ら自分の状況や不安な気持ちを話していただく機会にもなった。

オ　13(日)，武道場に避難していた若い男女のうち，男性の方が高熱を出した。ちょうど来校していた大阪の赤十字の医師に「明日，病院で受診するように」との指示をいただいた。

　翌14日(月)，近隣のＪＲ病院を受診した結果，「気管支炎」との診断だったが，まだ高熱が続いていたために，この２名に放送室を開放し，集団から隔離した。その後，女性も高熱を出し，「インフルエンザ」との診断を受けることになった。

　この後，校舎内の流しに，薬用石けん・アルコール消毒・うがい薬を設置した。

②［3/12(土)の会議室での患者の概要＝原田養護教諭の記録］ P19,資料3

・ＳＫさん＝86歳，心臓病（内服），酸素ボンベ
・ＭＤさん＝76歳，狭心症，（市立病院より）
・ＫＫさん＝心臓病，めまい，車椅子，（市立病院より）
・ＴＩさん＝心臓病，（本校体育館から移動）
・ＲＨさん＝ＴＩさんの付き添い（友人）

(3)　備蓄室に備蓄されていた食料等の配給の状況

①　本校に備蓄されていた食料は，以下の通りだった。 P22,資料6

ア　カンパン（1230食）
イ　アルファ米（1200食）
ウ　飲料水（500ml×1200本）

　地震発生の夜，65歳以上の高齢者と未就学児に対して，500mlのペットボトル１本を配給した。

　カンパンは全員に行き渡らないと不公平感を与えるという心配と，アルファ米は水がストップして配給が不可能ということから，飲料水のみを高齢者と未就学児に限定して配給したのだった。

②　本校備蓄室には，簡易組立トイレも備蓄されていたが，組み立てに労力を要することと校内のトイレで間に合うと判断したことから，校長の判断で簡易組立トイレは使用しないことにした。

③　荒町コミュニティー防災センターに備蓄されている「防災資機材」については，今回，全く使用しなかった。 P23,資料7

　災害の状況もあってか，校内はもとより青葉区災害対策本部からも，全く話題にも上らなかった。

　もしかすると，本校は青葉区管轄なのに対して，荒町コミュニティー防災センターは若林区管轄ということにも一因があるのかもしれない。

　後日談ではあるが，片平市民センターに備蓄されている「防災資機材」で，例えば，発電機が保管されてあったが，全然使用されないものもあり，必要ならば，五橋中学校に貸し出しても良かった……というような話があった。

(4)　青葉区役所からの派遣職員等の対応の状況

①　青葉区役所の災害対策本部から派遣された人はわずか１名（障害高齢課職員）で，役目としては，本校からの要請等を災害地策本部に伝えることが主なものだった。

　なお，区役所職員は，初めの10日間くらいは，毎日メンバーが入れ替わり，避難所運営に関してはほとんどノータッチでの状態だった。

　それに対して，震災まもなくから約１週間にわたって，神戸市から職員が本校に４名派遣され，２名ずつが二交代制で武道館前の受付に常駐するなど，献身的に活動していただいた。

　なお，神戸市の職員には，体育館脇の小部屋を休憩所として使用していただいた。

②　今回の避難所開設に当たっても，予め予定されていた２名の指定動員職員が来校することはなかった。

③　3/18(金)，企画調整局が企画・作成したという『「避難者カード」作成呼びかけ原稿』の下に，3/19(土)に呼びかけをして，3/20(日)に記入してもらい，3/21(月)に回収するという手立てが講じられたが，この一連の作業は区役所職員によって行われた。

　これは，安否確認と状況把握が主な目的ということであった。 P24,資料8

(5)　避難者への見舞いや慰労等（精神的ケア）について

①　避難者を慰労したいというご本人の強い希望で，3/15(火)，12:00から３階多目的室で，学区内に住むイヴォンヌ・チャンさんによるピアノ・コンサートを実施した。実施に当たっては，Ａ４版のポスターを数枚作成し，避難者へのＰＲを行った。

②　3/17(木)，16:35，Free TEMPOの半沢武志　氏が来校し，避難者の皆さんを励ますために１曲でも２曲でも歌わしてほしいということだったが，連絡先を聞いて，後日連絡することにした。結果として，実現しなかった・

③　3/14付けで，本校が７年前に友好使節団を交換した中国の「紹興市第一級初級中学教育集団」から，見舞いのＦＡＸが届いた。

④　詳細な日時は，記録していないが次のようなサービスも提供していただいた。

ア　ホソヤ整骨院さんから，マッサージの巡回サービス，湿布差し入れ

イ　自宅出張型パーソナルトレーナー（増山さん）の6名が来校して，マッサージのサービス

⑤　市教委教育指導課等から送付された（保護者用啓発プリント）『保護者のみなさまへ子どもの災害後の反応はいろいろあります』(3/18付）や（教職員用啓発プリント）『救援や支援活動にたずさわっている方へ』を活用して，心のケアに努めた。

5　食事や物品の支援･配給等について

(1)　食料の支援・配給について

①　3/13(日)，夕方，大阪の炭火焼き肉チェーン店（「鶴兆」）の店長さん数名が，２台のバンで駆けつけ，たくさんの食料（米，インスタントラーメン等々）やガスコンロや鍋などを差し入れてくれた。(4/18付で御礼状送付)

②　3/14(月)，深夜，宇都宮のある会社（「ＲＥＸ」）の社長さん以下数名の社員が，車に自家発電機と照明器具，飲料水，ガスボンベ，ガスコンロ，食材等を積んで，来校した。来校した社員の一人（専務）が地震発生の日，宇都宮に帰ることができなくて，本校で一夜を過ごしたことから，御礼の意味を込めて大勢の避難者に「炊き出し」を提供したいということで，資材等の全てを準備して，来校したとのこと。

夜中の１時過ぎから準備を始めて，翌朝の６時30分過ぎに，約350食分の温かい「すいとん」を避難者に提供していただいた。　【表紙写真の板書参照】

なお，約350食分というのは，食事なしに勤務に出かける人などを除いた数字で，宿泊者（避難者）はもっと大勢いたことを付記しておきたい。

さらに，「ＲＥＸ」の方々は，日中，再び食材を仙台市内で調達して，夕食の「炊き出し」を行っていただいた。この食材（野菜）の調達の際には，野菜の個数を制限されて困っていたところ，「野上八百屋」さんから，特別に多くの野菜の提供をしていただいとといいうお話をいただいた。

なお，「ＲＥＸ」の方々は，二度目の炊き出しを終え，余った食材や調味料等を支援品として大量に本校に寄贈して，宇都宮に戻っていった。(4/18付で御礼状送付)

③　この温かい食事が非常に好評だったことと電気が復旧したこともあって，教員が温かいものを作って，避難者に提供しようということにして，3/15(火)の朝食づくり（小池ラーメン）に挑戦し，前日と同様に好評を博したが，夜中の３時頃から準備を始めなければ間に合わないことから，６時過ぎに提供する朝食づくりは一日で中止にした。

④　栃木（「ＲＥＸ」）からの支援品（５-(1)-②の詳細）　P25,資料9

・カップ麺　　７個
・乾麺　　約10～12人分
・アルファ米　　１袋
・以下，省略（野菜や調味料等）

⑤　広島市からも，飲料水164本やアルファ米500人分が届いた。(3/14，18:50)

⑥　3/19(土)，ここ４年間，第２学年の野外活動でお世話になっている山形県の舟形町役場の担当者（曽根田さん）から電話があり，「民泊した生徒さんのために,何かできることがあれば，連絡ください。」という申し出があった。

(2)　保護者や地域の方々からの差し入れについて　P4,【３-(3)-①②と一部重複】

前述した以外にも，次のような方々からの差し入れがあり，この場を借りて，改めて御礼を申し上げます。

（記録・記憶に残っていない方々も大勢おり，その方々には大変申し訳ありません。）

① 避難者に対して，地元のスーパー「西友」の店長さん（本校の保護者，谷口さん）から複数回にわたり，それぞれ100個以上の「おにぎり」をいただいた。(3/18，18:00)
② 複数回にわたって，本校保護者（阿部さん）から，教職員用や避難者用に，「惣菜等」の差し入れをいただいた。
③ 教職員に対して，何名かの本校保護者（東郷さん，高橋さん外）から，複数回にわたって，「お茶やコーヒー・チョコ」「ちらし寿司」「おにぎり」等の差し入れをいただいた。
④ その他，次のような方々からの物品等の差し入れがあった。（日時不明も有）
ア 地域（庄子さん）から，おにぎり等
イ 地域（土樋）の方から，ビスケット１箱，アルファ米１箱
ウ 保護者（小室さん）から，カイロ，ゆで卵
エ 地域（佐藤さん）の方から，布団２組
オ 地域（小野さん）から，バナナやお菓子各種
カ 地域（大久保さん）から，湯たんぽ５個，お湯
キ 若林区清水小路の奥田さんから，オムツ，米6kg，薬品類（3/15，20:00）
ク ダイヤパレスの佐藤さんから，生菓子（3/15，16:30）
ケ ダイヤパレスの熊谷さんから，菊ふく200個（3/1516:30）
コ 東北外国語専門学校さんから，支倉焼きを８箱（3/115:30）
サ 匿名の方（年配）から，子どものためにと毛布を150枚
シ 地域の方から歯ブラシ

(3) 在庫食料等一覧の作成について

① ［在庫食料等一覧］
3/14(月）20:00現在の在庫食料等一覧を石井教諭が作成した。 P26,資料10
ア アルファ米 651人分
イ インスタントラーメン 195食分
ウ おかゆ，ぞうすい 50人分
エ 餅 11kg×３パック（18～20個入り）
オ カップ麺そうめん等
カ 水 500mＬ×164本 2Ｌ×6本

② ［支援品リスト］
3/16(水）現在で，石井教諭が作成した「支援品リスト」によると，以下の方々から支援品をいただいたことが分かっているが，その日以外の「支援品リスト」は手元に残っていない。 P27,資料11
ア 地域の方から（ガスボンベ，スポンジ，単３電池，ろうそく，割り箸等）
イ 古賀様から（生菓子，野菜類，缶詰，インスタントラーメン，味噌等）
ウ 氏名不詳様から（缶詰各種，カップヌードル，カップお汁粉等）
エ 氏名不詳様から（天然酵母パン，クリーム玄米フラン，即席味噌汁等）
オ 自衛隊経由で（豆餅，柿の種チョコ，アルファ米，乾パン）
カ 青葉区から（肉巻きロール，炊いたご飯，汁物用カップ，割り箸）

③ ［差し入れ在庫品（リスト)］
3/16（水)頃から，石井教諭をチーフとする支援品受け入れ担当を決め，賞味期限日ごとに分類した「差し入れ在庫品（リスト)」を作成し始めた。 P28,資料12

④ ［物品必要量把握シート］
青葉区の防災対策本部から，3/17から「物品必要量把握シート」に必要な物品の一覧を記入・提出するように求められ，提出する。
以下は，3/17現在の「物品必要量把握シート」に記載した物品 P29,資料13
ア カップ麺 420食分
イ ミカン以外の果物
ウ 味噌・醤油
エ 紙オムツ
オ サランラップ，アルミホイル

⑤ ［差し当たって余分なもの］
3/21(月)，11:00現在の在庫状況から「差し当たって余分なもの」を以下のように作成し，この一覧を青葉区職員を通して青葉区災害対策本部に送付し，受け取りに来ていただければ，差し上げます」ということを伝えた。 P30,資料14

ア　米：30.5kg×５袋＝約150kg
イ　炭：8kg×５箱＝30kg，10kg×２箱＝20kg　計50kg
ウ　グレープフルーツ：20kg×２箱
エ　おしぼり：600個
オ　割り箸：500本
カ　どんぶり（プラスチック）：100個
キ　皿（プラスチック）：100枚
ク　紙コップ：200個
ケ　カセットボンベ：3本×35個＝105本
コ　カセットコンロ：3台
サ　医薬品類：多数
シ　カイロ：30個×８箱＝240個
ス　オムツ（大人用）
セ　赤ちゃん用品（オムツ，ミルク，離乳食など）
ソ　生理用品：段ボール2箱
タ　アルミの防災用ブランケット：60枚
チ　毛布：1000枚以上
ツ　アルミの敷きマット：数枚

⑥　［食事メニュー］
　次第に，在庫品の状況を見ながら，支援品受け入れ担当の教員が配給する食事のメニューを決めるようになってきた。
ア　3/12(土)，10:00＝アルファ米（7:10より教職員が調理室で準備）
　　16:30＝アルファ米
　　17:00＝水配布
イ　3/13(日)，　9:30＝アルファ米（380個…２人で１個）
　　イチゴ１ヶ，リンゴ8分の1ヶ
　　16:00＝クラッカー，バナナ１本，水（500cc）
ウ　3/14(月)，　6:30＝炊き出し(すいとん)※　栃木「ＲＥＸ」　P8,【５-(1)-②参照】
　　10:00＝パン，リンゴ，ミカンかバナナ
　　16:30＝炊き出し(味噌汁・スープ)，在庫品　※　栃木ＲＥＸ
エ　3/15(火)，　6:30＝ラーメン（教職員の炊き出し）
　　13:00＝乾パン，ミカン・バナナ・リンゴ……セルフサービス
　　16:30＝ポトフ・パン，ミカン・バナナ……セルフサービス
オ　3/16(水)，(時間未記録）＝アルファ米雑炊
キ　3/17(木)　（未記録）

ク　3/18(金)，　9:30＝クラッカー，野菜ジュース
　　13:00＝カップ焼きそば，ウインナーソーセージ３本
　　16:30＝おかゆ，果物
（以上は，教頭が記録しているもので，
以下は，記録が残されているもの）　P31,資料15

ケ　3/19(土)，朝食9:30
　　＝乾パン・クラッカー各１，味噌汁は自分たちで作っていただく（インスタント味噌汁）　，リンゴ
　　昼（おやつ）12:30
　　＝トルテクッキー一人６枚，鯛焼き一人２個，ビニール袋に入れたチョコレートやハイチュウなどのお菓子
　　夕食16:30
　　＝白がゆは自分たちで作っていただく（電気ポットを準備して，各自がお湯を注ぐ)，キュウリの漬け物，ウインナーソーセージ，かまぼこ
コ　3/20(日)，朝＝インスタントの「きつねうどん(24個)」か「エビソバ(20個)」
　　昼（おやつ）＝豆餅一人５枚，アメボー一人３個，リンゴ
　　夕＝アルファ米（各自お湯を注ぐ)，モミ海苔

サ　3/21(月)，朝＝シーフードヌードル，固いビスケット
昼（おやつ）＝チョコ柿ピー一人１袋，プレーンクッキー一人１袋
夕＝白がゆ（足りない場合は，五目がゆ）
シ　3/22(火)，朝＝あっさりティストのスープヌードル，野菜ジュース
昼（おやつ）＝４種類からフリーに取ってもらう
夕＝アルファ米，味噌汁，ハッサク
ス　3/23(水)，朝＝ソース焼きそば
昼＝お汁粉（紙コップに）
夜＝白がゆ，ウインナーソーセージ
セ　3/24(木)，朝＝うどん・ソバ類（カップ麺）
昼＝ホワイトチョコワッフル
夜＝五目ご飯，ウインナーソーセージ

⑦　［避難者に配給できるもの（リスト)］(3/21現在，石井教諭作成)
P32,資料16
ア　50食まとめて作るアルファ米（五目ご飯，山菜おこわ，梅がゆ等）1000食
イ　個々に作るアルファ米（白がゆ，五目ごはん）198食
ウ　カップ麺（焼きそばも含め）352食
エ　ウインナーソーセージ（冷凍，冷蔵）475本
オ　乾パン類（乾パン，クラッカー，固いビスケット）707個
カ　お菓子類（アメボー403袋，柿チョコ235袋，豆餅411袋，お汁粉30袋等）

⑧　［灯油に関して］
特に，夜間の暖房用に本校の石油ストーブを武道館や体育館，保健室等で使用したが，学校で準備していた灯油は，震災まもなく使い切ってしまい，青葉区役所の災害対策本部に灯油の補給を何度か依頼した。
なお，灯油のストーブへの補給作業は，教員が行った。
灯油の配達関係で記録のあるものについては，以下の通りである。
ア　3/16付　「避難所の灯油について」によると，3/15は配達済(18㍑缶×５缶)，3/16配達なし，3/17未定
P33,資料17
イ　3/17付　「灯油配達予定」によると，3/17は配達なし，3/18は未定
ウ　3/20　灯油の在庫状況は，18㍑缶で10缶，9㍑缶で8缶

6　教職員や生徒の動きについて

(1)　教職員の動き

地震当初は，全教職員が同じような体制で勤務したが，次第に，昼の勤務，夜の勤務に分けて，勤務するようにした。
さらに，それぞれのチームは，そのチーム内で仕事の割り当てを分担して勤務した。

①　3/17(木)・18(金)，日勤部隊の割り当て
P34,資料18
ア　原則として，9:00～17:00まで，１時間ごとに交代（配給・調理は２交代制）
イ　本部・放送対応者は別にして，「正門前」「正面玄関前」「食事・清掃」「ボランティア生徒対応」の４班
②　夜勤部隊の割り当て例
P35,資料19
ア　3/15(火)＝20:00～22:30（中田），22:30～1:00（小池），1:00～3:30（矢吹），3:30～6:00（藤島）
イ　3/17(木)＝20:00～22:30（福島），20:30～1:00（小野寺），1:00～3:30（藤島），3:30～6:00（草野）……6:00起床・掃除・ラジオ体操

(2)　生徒（ボランティア）の動き

①　ボランティア隊は，震災二日目の3/13(日)から，本校に登校して活動してくれた。
在校生10数名の外に，本校を昨年度卒業した高校１年生まで手伝いにきてくれた。
②　3/23付で『五橋中学校　緊急臨時ボランティア隊からだより』が作成され，在校生徒に向けて，発行された。
P36,資料20

【参考】

東日本大震災の発生した３月１１日の夕方から３月３１日まで，本校も「避難所」となりました。

先生方は，土日も関係なく，２４時間体制で手分けして，本校に避難をしてきた方々に対応してきました。まさに，初めの数日間は，不眠不休の状況で，辛く思ったこともありましたが，そんな状況の中でも，私なりに感激し，嬉しく感じた出来事がいくつもありました。

最も嬉しかったのは，１年生，２年生，３年生，卒業生を含む何人もの五橋生が，自主的にボランティア活動をしてくれたことです。

水道のでない間は，トイレ用の水は，バケツでプールの水を汲んで，トイレの前まで運ぶという肉体作業を先生方と一緒にやってくれました。

土足やゴミなどで汚れた階段や教室の床を拭いてくれました。避難者への食事の配給や炊き出しを先生方と一緒にやってくれました。

中には，校舎内に泊まり込んで，先生方の補助員役として様々なお手伝いをしてくれた人，武道場前の本部で受け付けのお手伝いをしてくれた人，そして，予定より１０日遅れの卒業式を行った体育館の清掃や椅子並べをしてくれたのも本校の緊急臨時ボランティア隊の人たちでした。

避難所の入り口となった武道館前のピロティの壁面には「地震になんて負けないぞ！共にがんばりましょう」という避難者へのメッセージを寄せ書きして，掲示したのも五橋生でした。

３月２３日には，次のような一節が掲載された『緊急臨時ボランティア隊だより』が発行されました。

復興まで何年かかるのか，想像もつきません。そんな悲嘆に暮れる日々において，私は今まで当たり前すぎて，見失っていたことを心から実感しました。私たちには命がある。これは，何にも代え難い力である，と。そう，生きていること自体が幸せの一つなのだ，と。その幸せの実感とともに，私たちには使命が課せられています。未来のために，復興のために，できる限りのことをする。これからの社会を担う若い世代から，元気を出していかなければいけないと思います。

五橋生のボランティア活動は，「震災復興プロジェクト」として現在も続いています。

この震災で失ったものはたくさんありますが，得たものも山ほどあると思っています。　（親師会広報紙への校長の原稿『絆をつないで～五橋生と震災～』より）

③　なお，このボランティア活動に対して，6月7日，本市教育委員会青沼教育長から，表彰状が授与された。授与式には生徒会執行部が参列し，生徒代表として生徒会長が受領した。

④　新年度になってからスタートしている「震災復興プロジェクト」の概要 P37,資料21

大震災の直後，生徒会を中心にして自然発生的に結成された「災害対応臨時ボランティア」が，『震災復興プロジェクト』として，過日，再スタートした。

【主な取り組み(案)】

ア　五橋生が激励メッセージを書き，閖上（ゆりあげ）中生徒に届ける。

イ　5/24～26の３日間，閖上中生徒会への義援金を集め，合計額81,589円が集まる。

ウ　正門付近の壁面に「寄せ書き横断幕」を設置し，五橋生だけでなく，一般市民の方々にも激励メッセージを書いていただく。

なお，この「寄せ書き横断幕」は諸々の事情から実施に至らなかったが，9/10に実施した五橋祭＝文化祭において，生徒一人ひとりの「復興への願い」と「将来の夢」を短冊にして，折り鶴と一緒に校内に飾り付けをしたが，一般の来校者にも同様の呼びかけを行い，来校者の「復興への願い」等も校舎内に飾りつけるというプロジェクトを実施した。

エ　挨拶運動を実施する。

※　「幸せのひまわり運動」……同窓生の方からの「ひまわりの種の提供」があり，後から追加された運動，屋上庭園や各クラスでプランター，自宅でも栽培。

※　市教委が提唱している『故郷復興プロジェクト』運動にも参加する。

【この「震災復興プロジェクト」の主な趣旨】
ア　激励地区を「閖上」とする理由
　本校では過去数年間，１年生で「閖上海岸まで歩こう」という校外学習を実施してきており，閖上地区は非常になじみ深い地域だったが，今回の大震災で壊滅的な被害を受けたということで，その激励をしたいから。
（なお，閖上中学校は，4月28日現在，不二が丘小の校舎で学校を再開したとのこと。）
イ　挨拶運動を実施する理由
　仙台市内の中心部にある学校として，挨拶運動によって，自分たちから元気さ・明るさを示すことで，被災で困っている方々にも元気さ・明るさを取り戻してほしいということから。　（4/25の全校集会での生徒会からの提案要旨から）

7　その他（学校運営の概況）

(1)　生徒の安否確認の結果

①　地震当日に１・２年生は校内で，安否確認をして全員ケガ等のないことを確認し，さらに，自宅等に電話連絡をして，全員異常がないことを確認した。

②　（3/16，10:00からの職員打合せで確認したこと）　P38，資料22
　3月15日（火）に行われた臨時合同校長会において，生徒の安否確認とともに保護者等の家庭状況や家屋の被害状況も把握するように指導されたことから，以下の点について，3/16からの３日間で，学級担任が生徒宅に電話を入れることにした。（詳細は，④）

③　安否等確認項目
ア　本人安否・家族安否
イ　自宅建物の被害
ウ　3/22（卒業式）の出欠予定

④　生徒（１・２年）の具体的な状況について（3/16～18現在）　P39，資料23
※　ライフラインの故障関係については，省略
ア　１年女子Ｋ＝両親が公務員で災害対応中のため親の実家の米沢に滞在中
イ　１年男子Ｔ＝石巻の祖母の家が流された［自宅に居住］
ウ　１年女子Ｔ＝父親の店に家族で生活している
エ　１年女子Ｆ＝小田原の叔父宅で生活している
オ　１年女子Ｍ＝沖野の自宅に戻れない
カ　１年男子Ｙ＝青森で生活している
キ　１年男子Ｐ＝秋田空港から韓国に戻る
ク　１年女子Ａ＝母親の実家が津波の被害がひどく，一緒に避難している
ケ　１年男子Ｓ＝自宅が被災で散らかってしまい，一家は父の会社で生活している
コ　１年女子Ｍ＝父の実家の愛子で生活している
サ　１年男子Ｔ＝自宅の外壁や内壁に損傷があり，荒町市民センターに避難中
シ　１年男子Ａ＝親が震災対応の仕事のため，兄と生活している［自宅に居住］
ス　１年女子Ｉ＝ライフラインが通じないので町内の母の実家で生活している
セ　１年女子Ｏ＝荒町市民センターに避難中
ソ　１年女子Ｋ＝中国に戻る
タ　１年女子Ｓ＝中国に戻る
チ　１年女子Ｈ＝家族全員で愛知県の母の実家に避難する
ツ　１年女子Ｙ＝五十人町で生活している
テ　２年男子Ｏ＝自宅が損傷したため，母の実家の山形で生活している
ト　２年男子Ｋ＝母の実家の大和町で生活している
ナ　２年男子Ｓ＝母の実家の北海道にいる
ニ　２年女子Ｔ＝父は仙台にいるが，家族は秋田で生活している
ヌ　２年男子Ｉ＝新潟で生活している
ネ　２年男子Ｏ＝花巻で生活している
ノ　２年男子Ｔ＝山形で生活している
ハ　２年男子Ｔ＝中国に戻る
ヒ　２年男子Ｈ＝両親の店舗で生活している
フ　２年男子Ｓ＝中国に戻る
ヘ　２年男子Ｉ＝広島で生活している
ホ　２年女子Ｕ＝横浜で生活している

マ　２年女子Ｋ＝自宅が区役所から「(倒壊)要注意」の張り紙をされた［自宅に居住］
ミ　２年男子Ｋ＝山形で生活している
ム　２年女子Ｓ＝長野で生活している
メ　２年女子Ｍ＝放射能対策のため山形で生活している
モ　２年女子Ｙ＝塩釜の自宅の１階が浸水のため，仙台のマンションから通学
ヤ　２年女子Ｎ＝自宅が半壊したため八幡の父の実家で生活している
（以上，けが人や消息不明はゼロだったが、36人の生徒に何らかのトラブルが発生し、その内33人が自宅から避難しているという状況が判明した。）

(2)　生徒への臨時休校等の周知

①　3/13(日)14:21，一斉配信メールで「3/14(月)～18(金)まで臨時休校とすること」を配信した。 P40,資料24

②　上記の内容を記した掲示物を，正門付近に掲示して生徒・保護者に周知した。

③　3月16日(水)9:33，一斉配信メールで，「今後の日程＝3/18まで臨時休校，3/22卒業式，3/23午前授業，3/24終了式等＝」のお知らせを配信した。

(3)　正常な学校運営への復旧のために

①　3/16(水)頃には，区役所職員に対して，3月22日(火)に卒業式を実施する旨，そのためには，3月18日(金)頃までには避難者を武道館の一カ所に集約させていただき，3/19(土)・20(日)・21(月)の三連休の間に，式場となる体育館をはじめ生徒の集まる各教室を清掃・準備したい旨を伝えた。
　併せて，教職員がいつまでも学校に宿泊することや教職員が避難所運営に携わることには限界があると考え，本校をいつまでも避難所とするのではなく，市民センター等の公共の施設に移動していただきたいという希望は，区役所職員を通して，青葉区災害対策本部に何度か申し入れを行った。

②　3/24(木)，区役所から本校教頭宛に，「『避難所通信第1号』が発行されたので，それを持参して，16:00過ぎに障害高齢課長ら６人が来校し，通信を掲示するとともに，避難者に対して，毛布や畳の整理をして学校再開に向けての自立を促したい旨」の連絡が入った。

③　3/28(月)頃，本校での避難所運営は，3月31日までとし，避難者は，青葉区体育館等に移動していただくことを決定していただき，その旨を区役所職員を通して，武道館にいる避難者に伝えていただいた。

(4)　地域・地域の町内会等との関係

①　五橋連合町内会の会長(北松)さんや役員さんが，避難者の状況等を確認するために，２～３回，本校に来校していただき，状況等を把握していただいたが，役員さん方は，本校に避難することなく自宅で居住していた様子である。

②　五橋連合町内会長さんが来校した際に一度，青葉区役所職員に，「自宅で居住している地域の住民（在宅被災者）も食料等が不足して困っているので，避難者に配給しているような食料を自宅居住者にも回してほしい旨」の依頼をしたことがあった。
　「自分たちは，五橋中の避難者には地域外の人たちが大勢避難してきていることは知っており，中には，遠慮して避難所に来ていない住民もいる。区の対策本部は，いわば地域外の避難者には食料を優遇して，地域住民である自分たちには支援をしてくれないのか。」というような趣旨の申し出をしていたようである。
　結果として，避難者への配給が限度で，地域住民（在宅被災者）への支援はできない旨の回答をしたうであったが，このようなことについても，今後の課題の一つになるのかもしれない。

③　但し，本校における避難所の管理・運営に関して，地域の町内会や地域の方々が組織として参加したということは一切なかった。
　この件についても，今後の重要な課題の一つになるものと考えている。

(5)　今後の検討課題～防災教育の改善・充実の観点から

①　緊急時の家族との連絡の仕方の確認
　以下のように，緊急時の家族との連絡の仕方の原則を定め，生徒・保護者に指導・啓発した。

各家庭で緊急時の連絡方法の再確認を！

まだ連日強い余震があり，心配な日が続いています。これまでも，各家庭で緊急時の家族の集合場所や安否確認の手段については確認されてきたことと思いますが，今一度の確認をお願いします。今回の大地震時のような状況下では，学校では以下のように対 処していく方針です。

１　生徒が学校にいる時間帯の場合

①　基本的には生徒は学校に止め，保護者の方に迎えにきてもらい引き渡す。

②　各家庭で集合場所（近隣小学校等の学区内避難所）が決まっている場合は，その学区内避難所まで教員が引率する。

③　保護者の方と連絡が取れて，指示があった場合は，その指示に従い，生徒を移動させる。

２　生徒が学校にいない時間帯の場合

状況が落ち着き次第，電話等の手段で安否確認を行う。

後日，学校から「緊急時確認カード」を配付します。緊急時の各家庭での確認事項（引き渡しの場合の引受人および各家庭の集合場所）を記入の上，ご提出ください。

（平成23年4月15日，「学校だより」第2号に掲載）

② 地震を想定しての避難訓練

ア　全家庭を対象に，緊急時の「緊急時確認カード」を作成していただき，それを集約したら，次のようになった。(5月末日現在，全校生徒664人)

a	本校で避難し，保護者が迎えに来る生徒	＝	593人
b	荒町小に避難し，　〃	＝	21人
c	荒町市民センターに避難し，　〃	＝	2人
d	東二番丁小に避難し，　〃	＝	13人
e	片平丁小に避難し，　〃	＝	31人
f	片平市民センターに避難し，　〃	＝	1人
g	連坊小路小に避難し，　〃	＝	2人
h	自宅マンションに避難する生徒	＝	1人

イ　避難訓練（6/3(金)）において，全校生徒を各学級ごとに避難・整列・点呼・確認した後に，前述の緊急避難先ごとに生徒を集合・点呼・確認する活動を実施した。

③　部活動ごとに連絡網や緊急連絡先等の整備

これは，普段の放課後の練習はもとより，土日や祝日における練習や夜間練習を実施している場合で，緊急対応が迫られた場合に活用するというものである。

④　クラスによっては，「3.11を振り返る」「わたしの気持ち」「これからの世の中」について，生徒に書かせて，生徒の心のケアに役立てたクラスもある。

再び巨大震災が発生したら，「自分(たち)はどうすればいいか」についての話し合い・確認の指導を行った。

⑤　「防災ずきんや防災ヘルメット等」の整備についての検討

防災ヘルメットは，１個当たり2,200～2,300円程度のものが一般的である。

親師会等の支援を得て，学校として揃えたらいいのか，保護者個々の理解を得て，個別に集金したらよいか，それとも，防災ヘルメットの準備までは不要なのか等々について，意見の集約中である。

⑥　避難所の開設と運営に関して青葉区役所や町内会等との諸課題の調整

特に，「帰宅困難者」や市立病院で対応しきれない病人（４-(2)-①）への対応については，災害対策本部で十分に想定したものにしていただきたい。

7　終わりに（校長の私見）

各学校の防災計画等の見直しについて
～東日本大震災発生後の避難所開設・運営についての課題から考えたこと～

何人かの中学校長の話によると，今回の避難所開設・運営に関して，次のような課題が挙げられている。

①　市や区の防災対策本部に出向いても避難所の受け入れ体制が学校に丸投げになっているのが腑に落ちなかった。

②　避難所開設の際の行政の方との役割分担の整理と明確化が図られていなかった。

③　区によって，災害対応職員の動きが異なっていたのではないか。指定動員職員の動き

と合わせて，町内会との連携を含め，反省を生かして，今後に備えていきたい。
④　震災対応，避難所対応等によって，学校の負担が余りにも大きすぎた。
これらの意見も踏まえながら，個人的な意見をまとめてみます。

結果的に，避難所運営のほとんどは学校(教職員)が担当し，市長からも御礼と感謝の言葉をいただき，市教委（教育長）からも「教職員の献身的な貢献」と評価していただくとともに，まさに「地域とともに歩む学校づくり」の象徴だと賞賛していただいたが，学校現場を預かる者として，それを喜んでばかりではいけないと考えている。
教職員の本来の業務は，「児童生徒の指導，安全確保」であり，「避難所業務ではない」はずであり，「地域とともに歩む学校づくり」の本来の意味も，「校長が村長になって奮闘する」ことではないのだろうと考えている。
このことから考えると，本来は，学校を避難所とすべきではなく，市民センターや区の体育館等の公所を確保すべきではなかったのかとも考えている。(もちろん，今回のような未曾有の大震災の場合，市民が学校を安全な場所だと考えて避難場所として各学校に押し寄せたことは，当然であり，やむを得ない状況だったと考えている。)
大震災が発生した約３ヵ月後の現在でも，一部の学校には300人を超える避難者がいるという状況で，生徒たちの教育活動にも支障を来している現実がある。「学校は，一次的な避難所として活用する」等の認識があれば，避難者の方々に学校以外の公的な施設やその他の宿泊所に移動していただくことは可能ではなかったのではないかとも考えている。
消防局において，今後の総合的な防災計画の立案に当たっては，学校を第一番目の指定避難所とするのではないような方策を検討するとともに，仙台市と各区役所，各町内会，そして，各学校等の関係諸団体がそれぞれ参加しての防災体制や避難所開設・運営等に関しての準備・対応を検討・確認していくことが必要ではないかと考えており，このことについては，市教委側から，市長部局(消防局)に対して，強く要望してほしいと考えている。
そして，このことを大前提にして，学校としての防災計画を見直したり，従来から作成している「学校災害(地震)対応マニュアル」や「避難所開設・運営の支援マニュアル」を見なおしたりすることが必要であると思う。
併せて，市教委としては，学校が一次的な避難所として想定する場合，県費職員としての教員の勤務態勢や手当等の課題も明確にしていく必要があると考えている。

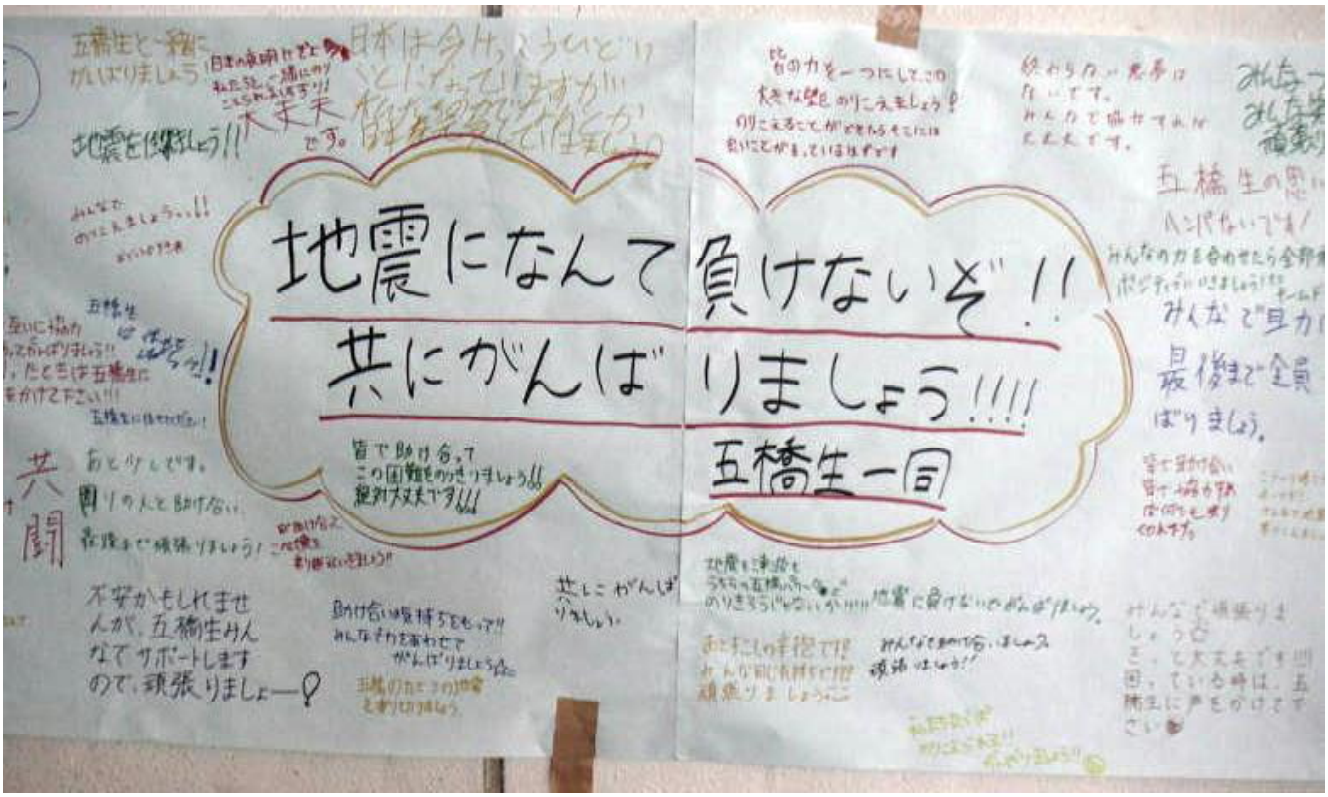
一方，23年6月10日付けの河北新報の県内版に，『学校を防災拠点に　議会と県　共通認識深まる』という見出しの記事が掲載された。
さらに，23年6月7日付け『内外教育』第6085号の「文科省三役の定例記者会見・抄録」の記事でも，「～国会審議でのそういった声は，今回の教員の加配や整備基本方針の改定などの措置を取るに当たってどのように反映されたのか。」という記者の質問に対して，高木義明文科相の回答として，次のように述べられている。
「これからの対応としては，学校施設が単に学校教育目的だけでなく，福祉施設としての機能，教育のみならず，保育，介護，場合によれば，診療，そうした要素などを多角的に使えるような対応とか，こういうような新しい学校が果たすべき機能を前提にした整備が必要ではないかと。地域コミュニティーの中核的施設としての学校を強く意識した施設整備基本方針の改正となっている。」
これら，宮城県議会の記事も高木文科相の記事も「学校の施設の整備」についての改革(？)案だが，学校施設の在り方や活用の仕方を変えればいいという問題ではないと考えている。
人的条件の配慮がなければ，教員の負担が増すばかりだと考えている。
万一，防災拠点や地域コミュニティーの中核的施設にするとなれば，「学校観」の大転換が迫られることになり，一つの県議会や一人の大臣のレベルの話では収まらないことになるものと思われる。

(終わりに)

この「記録」をまとめていると，23年7月5日付けで本校宛にメールで，地域住民の方から「震災の際のお礼」のお便りが入ってきた。 P41,資料25
震災直後にも，帰宅困難者からの「お礼」はいただいたが，この時期になってからの「お礼」にも，しみじみありがたいと感じた。
まだまだ「全記録」とまではいかないが，とりあえずこれで，『東日本大震災に際しての避難所の管理・運営等の記録（H23,7,11版)』の筆を置くこととしたい。

平成23年7月8日　　仙台市立五橋中学校　校長　髙橋　泰

【写真記録】



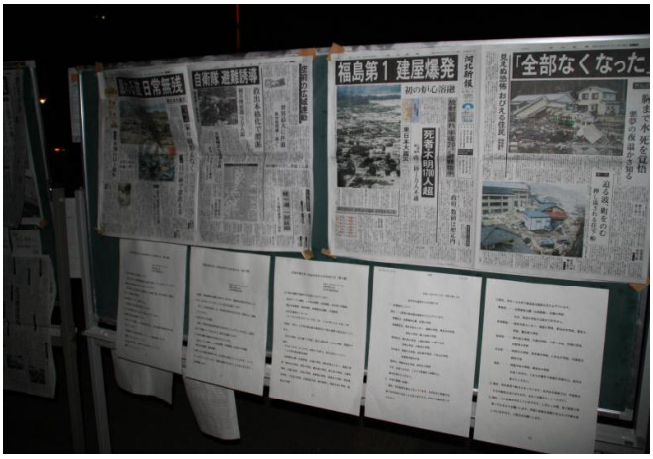
【3/13　ピロティの壁面に貼られた五橋生から避難者へのメッセージ】

【武道館内】

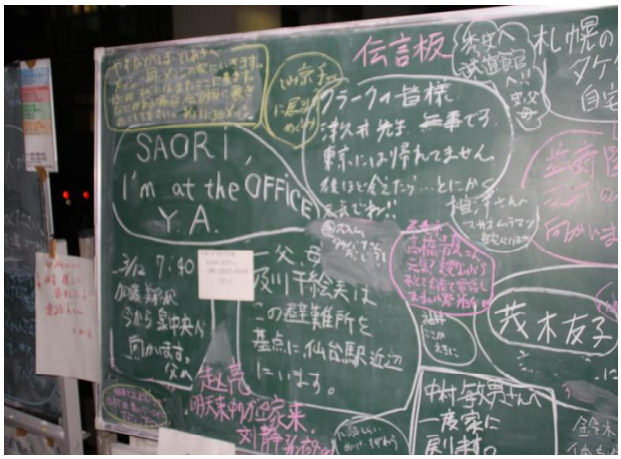
【3/15頃　教員による配給物資の整理】

【3/14深夜「REX］の方々による炊き出し】

【3/15朝「REX］の炊き出しに並ぶ人々】

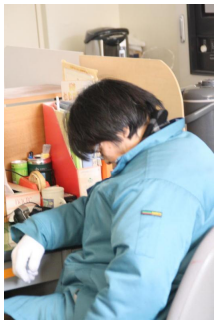


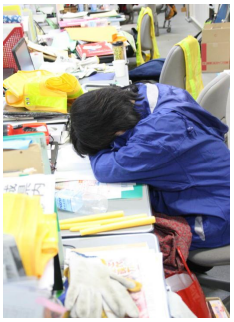
【ピロティ　お知らせ板】



【ピロティ　伝言板】

（疲れて寝入る教員たち）





『東日本大震災に際しての避難所の管理・運営等の記録（H23,7,11版）』

［発行日］　平成23年7月11日発行
平成23年9月 1日一部改訂

［発行人］　仙台市立五橋中学校　　校長　髙橋　泰

〒980－0022　仙台市青葉区五橋２丁目２－１

電話　022-225-5476

FAX　022-217-9723